

第1回地域プロモーション大賞 受賞団体コメント

(第7回 ふるさとパンフレット大賞)

【大賞】大分県豊後高田市 《豊後高田!あるある本》

この度は、大変名誉ある賞をいただき、誠にありがとうございます。

豊後高田市(ぶんごたかだし)は、JRの駅もマクドナルドもないけれど風光明媚な自然や海山の幸の地域資源、また伝統文化や文化財恵まれたまちです。それに加え、「人口増対策」や「子育て支援の充実」にいち早くから取り組み、ほかに類をみないユニークできめ細やかな支援を行っています。

『豊後高田あるある!』は、豊後高田市民が「常識」だと思っていることが、移住した方々には理解できない「ギャップのおもしろさ」に着目したことがはじまりです。

市内からその「おもしろネタ」を募集し、その応募いただいたネタにインパクトのあるイラストを描いてくれたのは、移住者と地域の橋渡し担う移住女子2人が中心の『楽しい暮らしサポーターズ事務局』です。

豊後高田市民の想いが詰まったこの『豊後高田あるある!』をぜひ、お手に取り、少しでも豊後高田市の魅力に触れ、また、豊後高田市の暮らしをイメージしていただければ幸いです。



【優秀賞】長崎県松浦市 《meets!まつら vol.14》

この度は、大変光栄な賞をいただき誠にありがとうございます。

北部九州の端っこにある港町、長崎県松浦市ですが、魚の旨さでは右に出る者はいない!と自負しているながら、いかんせん知名度はいまひとつ。この状況からどうやって前に出ていくのか?「宝」を見つけて、磨いて、大声で愛を叫ぶしかありません。「アジの水揚げ日本一」・「トラフグの養殖日本一」・「水中考古学の最先端」・「歴史とグルメと体験観光のまち」…数ある宝の中から、市長が見つけて叫んだ一言が「アジフライの聖地 松浦」でした。これが老若男女のハートに火をつけ、多くの方がアジフライを求めて松浦に来てくださることに!



今回受賞した『meets!まつら』が目指したのは、松浦にアジフライを食べに来ていただくことで、アジフライをはじめ、松浦市が海の幸や山の幸に恵まれた食材の宝庫であることを知っていただくこと、松浦市のファンになっていただくこと、そして何度も松浦市を訪れていただくことです。

この冊子が、多くの方の目に触れ、松浦市を知っていただくきっかけになればと願っています。

【南伸坊賞】 奈良県王寺町 《奈良県王寺町で楽しむ世界遺産ビュー 明神山》

このたび、「南伸坊賞」という大変光栄な賞をいただくことができ、とてもうれしく思います。王寺町の明神山は、標高 273.6m の低い山でありながら、360 度のパノラマが広がる景色のきれいなところですよ。

このパンフレットの制作では、明神山からの景色の美しさをいか

にして伝えるかが課題でした。当初は仕掛け絵本のようなものまで考えましたが、印刷する紙を正方形にして三角に折る方法に気づいたことで、伝えたい情報のすべてを表裏一体で盛り込むことができ、単純ながらもインパクトのあるパンフレットを、安価に仕上げることができました。

パンフレットを目にした方が、「なんだこれ?」と手に取っていただき、たくさんの方々に王寺町の明神山に登っていただいて、世界遺産ビューを楽しんでいただければ幸いです。もう一度言いますが、「南伸坊賞」に選んでいただいて最高です!



【楓千里賞】 鹿児島県奄美市 《SHIMA-JIMAN(シマージマン) 奄美市一集落 | ブランド》

奄美市は鹿児島と沖縄本島のほぼ真ん中に位置する奄美大島の中にあり、人口約 4 万 3 千人と小さくも自然や文化が自慢の島です。

奄美大島には、古くから豊かな自然を畏れ敬い、恵みを得てきた文化があり、その文化は琉球や本土の影響を受けながら独特なものとなっています。しかし、文明が急速に発展する今日、この奄美でも古い時代の言い伝えや文化が生活から無くなりつつあります。

また、少子高齢化が深刻な地域もありますが、持前の地域コミュニティの豊かさで人が集い、笑顔が絶えません。

このことから奄美市では集落の宝である自然・文化等をブランドとして認定する「一集落 | ブランド事業」に取組み、田舎回帰を図っています。

この冊子は、その宝越しに見える人・モノ・自然の背景や情景にも注目し、未来に残したい素敵な「思い」をテーマとしています。この冊子を手にした方が、いつか奄美に行ってみたいと感じていただけたら幸いです。~懐かしい未来へ~



【パッケン賞】 東京都奥多摩町 《BLUE+GREEN JOURNAL #6》

この度は、大変光栄な賞を賜り、誠にありがとうございました。

奥多摩町は、東京都の約 10 分の 1 の面積を有し、その 9 割以上が山林を占めている、東京都で最も広く緑が豊かな町です。

「BLUE+GREEN JOURNAL」は、「奥多摩町で暮らすことの豊かさ」を広く実感してもらうことを目的として制作しているフリーペーパーで、より多くの人々の記憶に残るようにするため、従来の観光情報パンフレットや移住情報パンフレットとは違った、個性的な誌面・コンテンツとしています。

現在は、年に 2 回発行しており、今回受賞した 6 号では「乗り物」をテーマとし



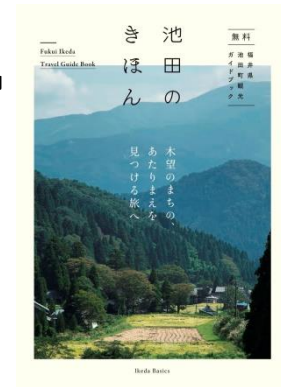
て、自転車、SUP、ハンモック、路線バスなど多岐にわたるコンテンツとなっていますので、ぜひ多くの方にご覧いただき、奥多摩町まで足を運んでいただくきっかけとなれば幸いです。

【マックン賞】福井県池田町《池田のきほん》

人口約 2500 人の豪雪地帯。福井県で最も小さい町、池田町という農村が大好きだと言ってくれる制作チームと一緒に作ったパンフレット「池田のきほん」を評価していただき、ありがとうございます。

池田町にも、規模は小さくとも観光地と呼べるものが多少はありますが、リピーターとして来てくださる方は、もっと奥底にある違う魅力を感じているということを感じたいと思い制作しました。また、15 年にわたり池田町に通い続けてくれる写真家の方が撮影した写真が、たくさん使われています。写真の力も感じてもらえればと思います。

とびらの言葉にあるように、「どこか懐かしくて美しい」池田町を、この「池田のきほん」を手に、巡っていたら幸いです。



【地域活性化センター賞】鹿児島県和泊町

《OKINOERABU SAIGOU GUIDE BOOK～南の島と「西郷どん」～》

明治維新の立役者であり、日本人であれば誰でも知っている西郷隆盛ですが、時の藩主の後見人である島津久光の逆鱗に触れ、沖永良部島に遠島になった一年半の間に「敬天愛人」の思想を育み、わたしたちがよく知る革命家になっていった歴史はあまり知られていません。そんな沖永良部島の西郷さんをたくさんの人に知ってほしい。歴史好きの方々だけでなく、どんな層の人にも親しみをもって見ていただけるよう、硬い見せ方は避け、イラストで親しみやすいものを意識しました。女性を明確にターゲットにしたことで、逆に多くの人に手に取っていただくことにつながったと感じています。今回の荣誉ある賞をいただけたことを契機に、さらに多くの方に「沖永良部島の西郷さん」を知っていただけたら幸いです。

